

自由で気まぐれで最強にかわいい子どもたちとの奮闘の記録とスーダン暮らしのいろいろ



Letter from SUDAN

vol.5

الرسالة من السودان



ジャバルオリーヤからの景色。都市部ではない、一般的なスーダンの住居はレンガと砂からできており、平屋建てで日光を遮るため窓が少ない。

1 はじめに

アッサラームアライクム！（こんにちは）青年海外協力隊2017年2次隊青少年活動の千頭佐和子です。

スーダン共和国の首都ハルツームの青年スポーツ省に所属し、ユースセンターや学校を巡回しながら青少年にスポーツ振興を行う活動をしています。

今年の冬は例年より長く、3月末ごろまで過ごしやすい気候だったのですが、4月に入ってから急に40度を超える日が続いています。年中暑いスーダンですが、意外と季節の変わり目ははっきりしています。そして、春になるとそろそろ気になってくるのが「ハブーブ（砂嵐）」！今年は一体いつ来るのかということ。体も部屋も砂まみれになります、2年目のハブーブ、楽しみです！

このレターではスーダンでの出来事や感じたこと通して、みなさんの中のスーダンやアフリカのイメージが少しでも身近なものに変わってくれたらいいなと思います。

2 【イスラム教】女性は抑圧されている存在？ in スーダン

イスラム教の男女差について、どのようなイメージをお持ちですか？女性は車の免許が取れない、スカーフやベールで髪や顔を隠さないとはいけなく、一夫多妻制など、女性が抑圧されているイメージを持つ方も少なくないのではないのでしょうか。

イスラム教の聖典コーランには、男性の役割、女性の役割がはっきり明記されており、現代社会においては女性に不利な法律や習慣となっていることもあって、イスラム教国で多くの社会問題となっています。

（コーランは宗教としてだけでなく、道徳や法律等の概念としてイスラム社会に深く根付いています）

しかし、イスラム教徒が97%を占めるスーダンで、わたしが気づいたのは、スーダンの女性はとても強いということ。きちんと自己主張ができ、人前でも、男性相手でも、まったく物怖じしません。優しく強いスーダンの女性のあるあるをいくつか紹介します！

■ 車の運転

運転している女性はたくさんいます。いままで乗せてもらった車では、女性の方が運転が上手だったような？

■ スカーフやベール

なかには着用していない女性もいますが、ほとんどの女性が着用しています。服と色や柄を合わせたりして、おしゃれを楽しんでいます。

■ 一夫多妻制

スーダンにもあります。ただし、結婚するときには男性が結婚に関する費用の全て準備する必要があり、数人の奥さんを平等に扱うことのできる人間性と経済力がなければ一夫多妻は認められません。

■ 家での力関係

家の中では、お母さん・奥さんが完全に強いです。「お母さん」が最強なのは、どこの国に行っても同じなようです。

スーダンでの生活を基にした独自の見解により作成しています。信仰や地域等により異なる場合があります。

3 活動先紹介④ アルニール高等学校

現在、私は2か所のユースセンターと5か所の学校を巡回してスポーツ振興を行っています。

スーダンの学校は基本的に小学校から男女別で、同じ学校の敷地内でも入り口や校舎が分けられており、同じ教室で学ぶことはなく、顔をあわせることもありません。

体育の授業は一般的にカリキュラムに組み込まれていないため、幼少期から基本的な体の動かし方を体得できていない印象です。特に、文化的な背景から女の子は外で遊ぶことが少なく、日常的にスポーツをして

いる子はほとんどいません。

今回ご紹介するアルニール高等学校では、1年生（14歳）を中心に3年生（16歳）までの全クラスを校長先生が直々にコーディネートしてくれ、毎週違うクラスの体育指導をしています。前回ご紹介したアルマアーリー高等学校とは姉妹校で、ここでも新たに体育の授業と、朝礼時に全校生徒で行う体操の時間を設けてくれました。

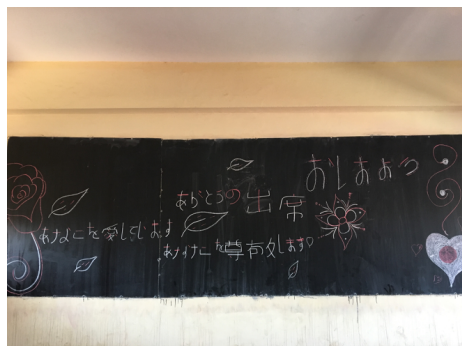
朝7時、朝礼の時間に学校に着くと、明るい声で「おはよう！」と日本語で挨拶してくれる子どもたち。

先生たちもとても協力的で、学校全体がとてもアットホームでありながら礼儀正しい雰囲気です。

ある日、授業が終わると、朝ごはんの時間（10時）に教室に来てね！と2年生のクラスからお誘いが。何だろうと思い行ってみると、家から持ち寄ってくれた料理でパーティを開いてくれました。彼女たちが自分たちで計画して、何日も前から準備してくれたことがとても嬉しく、スーダン人のホスピタリティの高さは子どもの頃から備えているんだなあと納得した出来事でした。



サーブの練習。ボールが飛ぶのが面白いらしく一番人気。



パーティーの日。黒板に書いてくれていた歓迎の言葉たち



プレゼントもいただきました！

4 デモンストレーションとスーダンの歴史

2018年12月19日にスーダンでデモンストレーションが起きました。小麦に対する政府の補助金を廃止したことによってパンの値段が3倍になったことへの抗議、ガソリン不足への抗議、スーダンポンドの不足などが発端でしたが、次第にデモの目的は変わり、革命や30年に及ぶ独裁政治を続けているバシル大統領の退陣を求めるデモに変わってきました。私がスーダンに来た1年半前と比べて3分の1以上のスーダン

ポンドの急落、物価の上昇、なのにお給料は上がらない。国民の不満と比例するようにデモはだんだん大きくなり、治安部隊との衝突も起きて、12月からの死者は50人を超えています。

スーダンは第一次（1955～1972）、第二次（1985～2005）と60年のうち実に37年もの間内戦を行って来ました。また、2003年に起こったダルフル紛争は未だ解決しておらず、バシル大統領はこの集

団虐殺に関与しているとされ、国際刑事裁判所から逮捕状が出ています。

また、1956年に英国・エジプトの統治から独立して以来、クーデターを繰り返して政権交代してきた歴史があります。



いたるところに置かれている水瓶。誰でも飲むことができる。

2019.03.31



千頭佐和子（ちかみさわこ）

高知県高知市、1982年11月生まれ。青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動。JFA公認サッカーC級コーチライセンス保有。アフリカ北東部にある青ナイルと白ナイルの合流点に位置する砂漠の国スーダン共和国にて活動中。高知の建設機械会社で11年間広報業務に従事、平日の夜と週末はサッカー漬けの生活を送っていたが、スポーツの素晴らしさを子どもたちに伝えるべく、現在は首都ハルツームにあるユースセンターや学校で、青少年へのスポーツ振興を行っている。

ブログ：JICAボランティアの世界日記「サーミヤコーチのスーダン滞在日記」 <http://world-diary.jica.go.jp/chikamisawako/>